

ヤマセミ(カワセミ科) 全長38センチ

5月10日から愛鳥週間が始まりました。

多くの野鳥が繁殖期に入ることから、一年で最も忙しくもあり大切な季節なのです。野鳥の求愛行動を観察するのは、なかなか難しいです。それは人に対してわざわざ見せつけることがないからです。

ヤマセミは主に上流の清流域に棲むとされるが、生息数はカワセミの数分の1以下であり、観察できる確率も少なくなっています。



メスがじっと遠くを見て何かを待っているようだ。

かつてヤマセミは大曲の市街地に近い雄物川で繁殖していたが、大雨などの増水により生息環境が大きく変化し、最近ではなかなか見られなくなりました。

それでもなんとかヤマセミ見たさに、旧南外村に出掛けました。人里離れた山の中で、周囲の自然環境も申し分なした。

水面に張り出した枝先で1羽のヤマセミが見つかった。メスだった。じっと観察しながら暫く経つと、遠くからオスがやって来た。メスに近寄ると小さな魚を渡したようだ。



オスが冠羽と尾羽をピッと立てた。



高い枝から何を眺めているのだろう。オス。

一本の枝の上で、お互いのクチバシをそっと触れ合った。

野鳥は基本的にメスに選択権があるので、オスたちはあれやこれやとメスの気を引き、選んでもらうためにプレゼントを運ぶ苦勞を重ねます。このような涙ぐましい行動の末にめでたく子孫を残すことが出来るのです。

この場所は、かなり以前からヤマセミの生息が確認されている所です。

ここは他の野鳥も数多く見られ、絶滅危惧種の猛禽類も飛来するなど、いつまでも残していかなければならない貴重な地域となっています。



オス（右）がメスのクチバシにそっと触れました。



繁殖行動も確認されたことから、雛の誕生も期待できそうだ。